

8節 外壁用塗膜防水材料による改修

4. 8. 1 一般事項

この節は、既存の仕上塗材塗り仕上げ等を改修する場合及びコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁、押出成形セメント板外壁、ALCパネル外壁等に外壁用塗膜防水材料塗りを行う場合に適用する。

4. 8. 2 外壁用塗膜防水材料仕上げ

- (1) 外壁用塗膜防水材料仕上げは、4. 6. 2の(1)から(5)までによる。
- (2) 所要量等の確認方法は、単位面積当たりの使用量によることを標準とする。また、仕上りの程度の確認は、表4. 6. 1による。
- (3) シーリング面に外壁用塗膜防水材料仕上げを行う場合は、シーリング材が硬化した後に行うものとし、塗重ね適合性を確認し、必要な処置を行う。
なお、シーリング材を打ち替える場合は、外壁用塗膜防水材料の製造所が指定するシーリング材を使用する。
- (4) 各種塗料塗りを行う場合は、7章[塗装改修工事]による。
- (5) コンクリート面のひび割れ部及び欠損部はの処置は、3節による。
なお、表4. 2. 6で特記した場合のひび割れ部の処置は、下地挙動緩衝材による。
- (6) モルタル部のひび割れ部、欠損部及び浮き部分の処置は、4節による。
なお、表4. 2. 6で特記した場合のひび割れ部の処置は、下地挙動緩衝材による。

4. 8. 3 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整

- (1) 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、4. 6. 3の(1)から(6)までによる。
- (2) モルタル下地の仕上げは、金ごてとする。
- (3) ALCパネルの場合は、4. 6. 3(8)による。
- (4) 押出成形セメント板の場合は、4. 6. 3(9)による。

4. 8. 4 既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上げ外壁の下地調整

既存のコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁等に外壁用塗膜防水材料塗りを行う場合の下地調整は、次による。ただし、目地には、外壁用塗膜防水材料の製造所が指定するシーリング材を使用する。

- (ア) コンクリート面の下地調整は、4. 6. 4(ア)による。
- (イ) モルタル及びプレキャストコンクリート面の下地調整は、4. 6. 4(イ)による。
- (ウ) ALCパネル面の下地調整は、4. 6. 4(ウ)による。
- (エ) 押出成形セメント板面の下地調整は、4. 6. 4(エ)による。

4. 8. 5 工法

- (1) 材料の練混ぜは、外壁用塗膜防水材料の製造所の指定する量の水で均一になるように行う。ただし、溶剤系のプライマー及び外壁用仕上塗料の場合は、指定量の専用薄め液で均一になるように行う。また、2液形は、薄める前に主剤と硬化剤を外壁用塗膜防水材料の製造所の指定する割合で混ぜ合わせる。
なお、練混ぜ量は、外壁用塗膜防水材料製造所の指定する可使時間内に使い終わる量とする。
- (2) プライマーは、だれ及び塗残しのないように均一に塗り付ける。
- (3) 下地挙動緩衝材は、幅0.2mm以上2.0mm未満のひび割れ部及びひび割れ部の延長上50mm以上に50mm程度の幅で0.5kg/m²を端部に段差のないようにはけにより塗り付ける。
- (4) 増塗りは、はけ又はローラーにより、防水材料塗りに先立ち、あらかじめ0.5~1.0kg/m²を端部に段差のないように塗り付ける。
なお、増塗りを行う部位は、プレキャストコンクリート、ALCパネル等の継手目地、建具回り、貫通部回り等の防水上重要な部位、出隅、入隅、目地部等の膜厚が薄くなりやすい部位、開口部回り等のひび割れが発生し易い部位、下地の動きが激しい部位等とする。
- (5) 防水材料塗りは、所定の厚みが確保できるように、塗付け方法により1~3回塗りとし、だれ、ピンホール及び塗残しのないよう下地を覆うように塗り付ける。

なお、ALC パネル下地の場合、防水材の吹付け前にはローラーで目つぶし塗りする。

- (6) 模様材塗りは、仕上げの形状に応じ、外壁用塗膜防水材の製造所の仕様により、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、指定する吹付け条件又はローラーを用いて塗り付ける。
- (7) 外壁用仕上塗料は、2回塗りとし、色むら、だれ、光沢むら等が生じないように均一に、はけ、ローラー又はスプレーガンにより塗り付ける。

4. 8. 6 部分改修工法

部分改修工法は、4. 8. 5 により、プライマー、防水材及び模様材で既存部分との模様合わせを行い、全面にプライマー及び外壁用仕上塗料を塗る。

表 4. 2. 6 外壁用塗膜防水材の仕上げの形状および工法
凹凸状・凸部処理

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回数
	規格番号	規格名称	種類			
既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整	(1) 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、4. 6. 3の(1)から(6)までによる。 (2) モルタル下地の仕上げは、金ごてとする。 (3) ALCパネルの場合は、4. 6. 3(8)による。 (4) 押出成形セメント板面の場合は、4. 6. 3(9)による。					
1	プライマー	—	—	(1液・水系) ニッパ° 水性カオソナー 透明 無希釈	0.1以上	1
2	下地挙動緩衝材 (注)4	適用は、特記による。ただし、ひび割れ幅は、0.2mm以上2.0mm未満とする。			0.5以上	1
3	増塗材 (注)5	JIS A 6021	建築用塗膜防水材 外壁用アクリルゴム系	(1液・水系) ニッパ° DAN エケル中塗 J 水道水 4~7%	0.5以上	1
4	アクリルゴム系 塗膜防水材 (注)6	JIS A 6021	建築用塗膜防水材 外壁用アクリルゴム系	(1液・水系) ニッパ° DAN エケル中塗 J 水道水 4~7%	1.8以上	1
5	模様材 (注)7、8	JIS A 6021	建築用塗膜防水材 外壁用アクリルゴム系	(1液・水系) ニッパ° DAN エケル中塗 J 水道水 0~2%	0.32以上	1
6	凸部処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーAをつけて、主材模様吹き直後に凸部を押さえる。 (凸部処理の場合のみ実施)				
7	外壁用 仕上塗料 (注)9	—	—	(フッ素系・1液・水系) DAN エケル水性フッ素上塗 水道水 5~10% (シリコン系・1液・水系) DAN エケル水性シリコン上塗 水道水 5~10% (ウレタン系・1液・水系) DAN エケル水性ウレタン上塗 水道水 5~10%	0.25以上	2

ゆず肌状・さざ波状

工 程	塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
	規格番号	規格名称	種類			
既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整	(1) 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、4. 6. 3の(1)から(6)までによる。 (2) モルタル下地の仕上げは、金ごてとする。 (3) ALCパネルの場合は、4. 6. 3(8)による。 (4) 押出成形セメント板面の場合は、4. 6. 3(9)による。					
1 プライマー	—	—	—	(1液・水系) ニッパ [®] 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1以上	1
2 下地挙動緩衝材 (注)4	適用は、特記による。ただし、ひび割れ幅は、0.2mm以上2.0mm未満とする。				0.5以上	1
3 増塗材 (注)5	JIS A 6021	建築用塗膜防水材 外壁用アクリルゴム系	—	(1液・水系) ニッパ [®] DAN エケル中塗 J 水道水 4~7%	0.5以上	1
4 アクリルゴム系 塗膜防水材	JIS A 6021(注)6	建築用塗膜防水材 外壁用アクリルゴム系	—	(1液・水系) ニッパ [®] DAN エケル中塗 J 水道水 4~7%	2.1以上	2 (注)10
5 外壁用 仕上塗料 (注)6	—	—	—	(フッ素系・1液・水系) DAN エケル水性フッ素上塗 水道水 5~10% (シリコン系・1液・水系) DAN エケル水性シリコン上塗 水道水 5~10% (ウレタン系・1液・水系) DAN エケル水性ウレタン上塗 水道水 5~10%	0.25以上	2

- (注) 1. 工法欄の吹付け及びローラーは、防水材及び模様材の塗付けに適用する。
 2. 所要量は、単位面積当たりの各材料（希釈する前）の使用質量とする。
 なお、表の所要量は、2回塗りの場合、2回分の使用質量を示す。
 3. 塗り回数は、外壁用塗膜防水材の製造所の指定による。
 4. 下地挙動緩衝材の適用は特記による。ただし、ひび割れ幅は、0.2mm以上2.0mm未満とする。
 5. 増塗りは、4.8.5(4)による。
 6. アクリルゴム系塗膜防水材の所要量は固形分が75%である材料の場合を示しており、固形分がこれ以上の場合にあつては、所定の塗膜厚を確保するように所要量を換算する。
 7. 模様材の種類と所要量は特記による。
 8. 仕上げを砂壁状、じゅらく状等とする場合の模様材の種類と所要量は特記による。
 なお、この場合は、外壁用仕上塗料を省略する。
 9. 外壁用仕上塗料の種類と所要量は特記による。
 10. 仕上げの形状に応じ、適切なローラーを用いる。。

※オーデフレッシュF100Ⅲの場合、上塗材1回目塗りには「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

※1. 増塗りは、出隅、入隅、目地部、開口部回り等にはけ又はローラーにより、端部に段差のないように塗り付ける

*JIS A 6909 防水形複層塗材Eの規格では、下記の商品も使用可能です。

(Jマーク品の組合せが、JIS A 6909 合格仕様となります。)

●下塗材（既存塗膜の状態や下地の種類等により使用できない場合もあります。）

・ニッパ[®] 水性カチオンシーラー（ホワイト）（1液・水系）

- ・ニッパ° ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）（2液・弱溶剤系）

●上塗材

- ・高弾性ファイン4Fセラミック（フッ素系・2液・弱溶剤系）
- ・ニッパ° 高弾性ファインシリコンフレッシュ（シリコン系・2液・弱溶剤系）
- ・DAN エクセルU上塗（ウレタン系・2液・溶剤系）